

緑風舎 演奏家応援コンサート 第2弾
演奏家にエールを！ 拍手でブラボーを！！

SUNAO GOKO

郷古 廉 ヴァイオリン・リサイタル

VIOLIN RECITAL

SOLO



BIBER

YSAÏE

BACH

BARTÓK

緑風舎音楽ホール

DEC.12 SAT.

2020

4:00pm

緑風舎
自由空間

Today's Program

♪ ビーバー：「ロザリオのソナタ集」より 第16曲 〈パッサカリヤ〉

Heinrich Ignaz Franz von Biber: Mystery (Rosary) Sonatas: XVI. Passacaglia in G Minor

ハインリヒ・イグナツ・フランツ・フォン・ビーバー（1644–1704）は、ボヘミア出身のオーストリアの音楽家。ヴァイオリンの名手としてザルツブルク大司教の宮廷に仕え、楽長の地位につき、皇帝レオポルト1世から爵位を授けられた。「ロザリオ・ソナタ」は「ミステリー・ソナタ」とも呼ばれ、聖母マリアへの祈りを表した15のソナタに、無伴奏のパッサカリヤ（守護天使）からなる大作で、最初のソナタと終曲のパッサカリヤ以外はすべてスכולダトゥーラ（変則調弦）が用いられる難曲としても知られている。曲集の締めくくりに置かれた「パッサカリヤ」は無伴奏のヴァイオリン曲。ひたすら美しい詩のような清澄さが心を打つ作品で、バッハのシャコンヌの先駆けとなる大曲として注目されている。自筆譜一曲づつに銅版画が添えられているが、このパッサカリヤには「守護天使と幼子」の銅版画が添えられてザルツブルグ大司教に献辞された。

♪ イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ短調 Op.27-2

Eugène-Auguste Ysaÿe: Sonata No. 2 from 6 Sonatas for solo violin, Op. 27

イザイはベルギーの偉大なヴァイオリニストとして、また作曲家、教師、指揮者としてもその名を知られた。有名なフランクのソナタはイザイに捧げられている。また美しいショーソンの詩曲もイザイに捧げられている。ヨーゼフ・シゲティの弾くバッハの「無伴奏ヴァイオリン・ソナタ」を聴き、シゲティの高度なテクニックによる表現力豊かな演奏とバッハの靈感豊富な作品に感銘を受け、作曲を決意したイザイは、全6曲のスケッチを一晚で書き上げたと伝えられている。1923年夏ごろから1924年にかけて作曲され、親交のある6人のヴァイオリニストに各曲が献呈された。本作品は6曲のうちの第2番目でヴァイオリニスト、ジャック・ティボーに献呈された。曲全体を通して、数百年もの間、修道院で歌い継がれて来た単声の素朴な旋律であるグレゴリア聖歌を「怒りの日」として循環楽想に用いられている。

----- 休 憩 -----

♪ バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 二短調 BWV1004

Johann Sebastian Bach: Violin Partita No. 2 in D Minor, BWV 1004

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータBWV1001-1006は、3曲ずつのソナタとパルティータの合計6曲からなり、ヴァイオリン独奏の楽曲として、今日では古今の名作の一つに数えられる。「パルティータ第2番」は、バッハの6曲の「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」の中で最も有名な作品で、アルマンド、クーラント、サラバンド、ジーク、シャコンヌの5つの舞曲からなる。257小節に及ぶ長大な「シャコンヌ」を終曲にもつ「パルティータ第2番」はこの曲集の頂点の一つを形成するもので、最も著名な作品である。全曲は暗く、悲痛味があるが、ソナタのように重々しくはなく、むしろ軽快である。各楽章とも短調で書かれた二部形式をなし、各部分を別々に繰り返す。

♪ バルトーク：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ Sz.117

Béla Bartók: Sonata for Solo Violin, Sz. 117

ハンガリー王国のバーンシャーグ地方のナジセントミクロシュに生まれ、ニューヨークで没したクラシック音楽の作曲家、ピアニスト。この曲は初演者メニューインの委嘱によって書かれ、彼に献呈されている。第1楽章にはメトロノーム指示はあるものの発想記号がなく、「（バッハの）シャコンヌのテンポで」というタイトルが与えられていることや、楽章の配置や構成などがJ.S.バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ第1番によく似ていることから、この曲はバッハへのオマージュ的な要素を強く感じさせる。そのためバッハのソナタとパルティータ全6曲を「旧約聖書」、バルトークのこの作品を「新約聖書」と呼ぶ向きもある。メニューインは初演以来この曲を欧米各地で熱心に演奏しており、1951年の来日のおりにもそのプログラムに加えた。

Profile

郷 古 廉 Sunao Goko/Violin



Photo : Hisao Suzuki

1993年生まれ。宮城県出身。2006年第11回ユーディ・メニューイン青少年国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門第1位（史上最年少優勝）。2013年8月ティボール・ヴァルガシオン国際ヴァイオリン・コンクール優勝ならびに聴衆賞・現代曲賞を受賞。

2007年12月のデビュー以来、新日本フィル、読売日響、東響、東京フィル、日本フィル、大阪フィル、名古屋フィル、仙台フィル、札幌、アンサンブル金沢等、各地のオーケストラと共演。共演指揮者にはゲルハルト・ボッセ、秋山和慶、井上道義、尾高忠明、小泉和裕、上岡敏之、下野竜也、山田和樹、川瀬賢太郎各氏などがいる。

2011～12年、2014年《サイトウ・キネン・フェスティバル松本》でストラヴィンスキー作曲「兵士の物語」に出演。《東京・春・音楽祭》、《ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン》にも招かれている。またリサイタルにも力を入れており、2017年より3年かけてベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲を演奏するシリーズも取り組んだ。

これまでに勅使河原真実、ゲルハルト・ボッセ、辰巳明子、バヴェル・ヴェルニコフの各氏に師事。国内外の音楽祭でジャン・ジャック・カントロフ、アナ・チュマチェンコの各氏のマスタークラスを受ける。

2014年にEXTONレーベルより無伴奏作品によるデビューCDをリリース、2015年にnascorレーベルよりブラームスのヴァイオリン・ソナタ集を、2020年1月にEXTONレーベル第4弾となる「ベルギー・アルバム」をリリースした。

2019年第29回出光音楽賞受賞。

現在、国内外で最も注目されているヴァイオリニストのひとりである。

使用楽器：1682年製アントニオ・ストラディヴァリ（Banat）